



# 南十字星

富山日豪ニュージーランド協会40周年記念誌

# 南十字星

富山日豪ニュージーランド協会40周年記念誌



富山日豪ニュージーランド協会

## 設立40周年にあたって



富山日豪ニューージーランド協会  
会長 新田 八朗

富山日豪ニューージーランド協会は設立40周年を迎えることになりました。ここまで歴史を重ねることができましたのは歴代会長、役員のみなさまのリーダーシップ、そして会員のみなさまのご協力、さらに事務局を受け持ってきていただいた方々のご献身の賜物と深く感謝申し上げます。

顧みますと、1982年8月20日富山日豪協会として設立され、その後1987年9月21日に富山日豪協会から富山日豪ニューージーランド協会へと名称変更しました。これによってオーストラリアに加えて同じく英連邦の一員であるニューージーランドとの友好親善に尽くしていく体制ができあがりました。

日本とオーストラリアならびにニューージーランド両国は地政学的には太平洋を共有する仲間です。そして、民主主義・人権・法の支配・市場の開放と自由主義経済という普遍的な価値を共有する同盟国でもあります。21世紀に入りアジア・太平洋の時代にあつてますます重要な関係となっています。

両国とも日本人にとって親しみのある国であるとともに大切な貿易相手です。オーストラリアからは天然ガス・石炭・鉄鉱石などの資源や牛肉などの食料品を、ニューージーランドからは酪農品や羊毛、木材などを輸入しています。そして観光旅行の行き先としても人気があります。

これまで節目の年には友好訪問団を派遣し、また年末のクリスマスパーティーは富山県に住む両国の人のみならず様々な国の方々も参加する国際的な交流の場となっております。そして毎年の総会には大使もしくは大使館の方々にご臨席いただいております。この40周年を機にあらためて両国との友好関係の尊さに思いを馳せ、これからもより一層の取り組みを続けていくことを会員のみなさまと確認したいと思っております。

祝辞

## 駐日オーストラリア大使からのメッセージ



駐日オーストラリア大使

ジャスティン・ハイハースト

富山日豪ニュージーランド協会の設立40周年を、心よりお祝い申し上げます。貴協会はこの期間、日豪間における草の根交流の発展を通じ、両国の関係に多大なるご貢献を果たしてきました。

貴協会が1982年富山日豪協会として発足した際、その設立趣意書には、両国の友好親善関係や、お互いの文化に対する相互理解の推進が謳われています。

日豪関係は実際、この40年間に目覚ましい進展を遂げました。貿易・経済関係は継続的に強化され、自由で繁栄し、開かれたインド太平洋地域の推進において、両国はお互いに欠かせないパートナーとなりました。

真の友人の価値は、最も困難な時期においてこそ発揮されます。オーストラリアが2019～2020年、森林火災に遭った際、日本は自衛隊要員の派遣や物資の輸送を行い、復興活動を支援して下さいました。同様に日本で東日本大震災が起きた際、オーストラリアはいち早く捜索救助隊を送り、非常時の対応を助けました。

またコロナ禍という試練の中、オーストラリアのガラス工芸作家カースティ・レイは2022年、世界的に知られる富山市ガラス美術館で個展「静けさの地平」を開催することができました。この作品展は成功を収め、日本でオーストラリア文化を代表する重要な役目を果たすと共に、地元の方々にオーストラリアの著名な芸術家の魅力を伝えてくれました。

オーストラリアとニュージーランドは今年、2023年最大のスポーツ大会のひとつである FIFA女子ワールドカップを共同開催します。本大会は女子アスリーの卓越した能力を称える機会であり、日本やオーストラリア、ニュージーランドを含め、世界を代表する女性サッカー選手の活躍が期待されます。

最後に改めまして、貴協会の設立40周年を祝福申し上げます。貴協会がこれからも、両国の関係強化に努めて下さることを確信しております。

2023年4月吉日



**AMBASSADOR**

**AUSTRALIAN EMBASSY  
TOKYO**

## MESSAGE FROM THE AUSTRALIAN AMBASSADOR TO JAPAN

I would like to extend my warmest congratulations to the Japan-Australia-New Zealand Association of Toyama (Toyama JANZ) on the 40th anniversary of its founding. Over the past forty years, the Toyama JANZ has made a great contribution to the Australia-Japan bilateral relationship by building on the people-to-people links in both countries.

When the Toyama JANZ was established as the Japan Australia Association in 1982, its mission statement spoke of the importance of the partnership between our two countries and the need to deepen understanding between our cultures.

The last forty years have indeed seen incredible growth in the bilateral relationship. Trade and economic ties have continued to strengthen, and Australia and Japan have become indispensable partners in promoting a free, open and prosperous Indo-Pacific region.

True friends are there for each other in the most difficult of times. When Australia faced destructive bushfires in 2019-2020, Japan deployed Self Defence Force personnel and resources to assist with the recovery effort. Similarly, when Japan was struck by the Great East Japan Earthquake and Tsunami, Australia was one of the first countries to send search and rescue personnel to assist with the emergency response.

I was delighted that, despite the challenges presented by COVID-19, Australian glass artist, Kirstie Rea was able to hold her “Breadth of Stillness” exhibition at the world-famous Toyama Glass Art Museum in 2022. This successful exhibition was an important representation of Australian culture in Japan, showcasing the work of a prominent Australian artist to the people of Toyama.

This year, Australia and New Zealand will co-host one of the largest sporting events of the year, the Women’s FIFA Football World Cup. It will be an opportunity to celebrate women’s sporting excellence and I am looking forward to seeing the world’s best women’s football players, including from Japan, Australia and New Zealand playing in the tournament.

Congratulations again on this occasion. I have confidence that Toyama JANZ will keep building stronger bonds between Australia and Japan.

Yours sincerely,

A handwritten signature in black ink, appearing to read 'Justin Hayhurst'.

Justin Hayhurst  
Australian Ambassador to Japan  
April 2023

祝辞

## 駐日ニュージーランド大使からのメッセージ



駐日ニュージーランド大使  
ハイミツシュ・クーパー

富山日豪ニュージーランド協会設立40周年にあたり、心よりお祝いを申し上げます。新田八朗会長はじめ会員の皆様には、この間ニュージーランドへの変わらぬご支援、ご理解を賜り、感謝いたしております。

新型コロナウイルス感染拡大は世界に未曾有の事態を引き起こしましたが、両国の関係は安寧です。昨年4月にはジャシンダ・アーダーン首相（当時）が日本を訪問し、とざされていた双方向の往来を改めて繋ぎ、両国の外交樹立70周年を祝いました。つい先頃には、ナナイア・マフタ外務大臣が訪日しました。地域安全保障や防衛、経済発展、気候変動など喫緊の課題について懇談を行いました。大臣は人的交流に基づく信頼醸成の大切さについて重ねて言及しました。まさに貴協会の存在意義を裏付けるものでございます。今年7月にはFIFA女子ワールドカップが、ニュージーランドとオーストラリアで共催の運びです。また、今年はニュージーランドが世界に先駆けて女性参政権を勝ち取り、ちょうど130年でもあります。幅広い分野で、層の厚い交流が期待されます。

富山日豪ニュージーランド協会の益々のご発展と、ニュージーランドと日本両国の更なる関係深化を強く祈念いたします。

2023年3月吉日



## Message from the New Zealand Ambassador

On the occasion of the 40th anniversary of the establishment of the Toyama Japan-Australia New Zealand Society, I would like to extend my heartfelt congratulations. I would like to thank Chairman Hachiro Nitta and members for your continued support and understanding of New Zealand over these years.

Although the spread of the new coronavirus has caused unprecedented worldwide concern, relations between the two countries are secure. Last April, former Prime Minister Jacinda Ardern visited Japan to re-connect following the pandemic and to celebrate the 70th anniversary of the establishment of diplomatic relations between our two countries. Just recently, Minister of Foreign Affairs Nanaia Mahuta visited Japan to discuss urgent issues such as regional security, defense, economic development, and climate change. The Minister repeatedly mentioned the importance of trust-building based on personal exchanges. This is a true testament to the significance of your association's existence. This July, the FIFA Women's World Cup will be co-hosted by New Zealand and Australia. This year also marks the 130th anniversary of New Zealand being the first country in the world to win women's suffrage. I look forward to even more active bilateral exchanges in a wide range of fields.

I strongly wish for the continued growth of the Toyama Japan-Australia New Zealand Society and for the further deepening of the relationship between New Zealand and Japan.

A handwritten signature in black ink, appearing to read 'H Cooper'.

Hamish Cooper  
New Zealand Ambassador  
March 2023



## 富山日豪ニューージーランド協会40周年記念誌 目次

口絵 .....	2
----------	---

### 設立40周年にあたって

富山日豪ニューージーランド協会 会長 新田 八朗 .....	5
--------------------------------	---

### 祝辞

駐日オーストラリア大使からのメッセージ ジャスティン・ハイハースト駐日オーストラリア大使 .....	6
駐日ニューージーランド大使からのメッセージ ハイミッシュ・クーパー駐日ニューージーランド大使 .....	8

富山日豪ニューージーランド協会設立40周年記念 特別鼎談 .....	12
------------------------------------	----

ダイバーシティの先駆的存在として3国の友好親善に貢献

## 40年の歩み

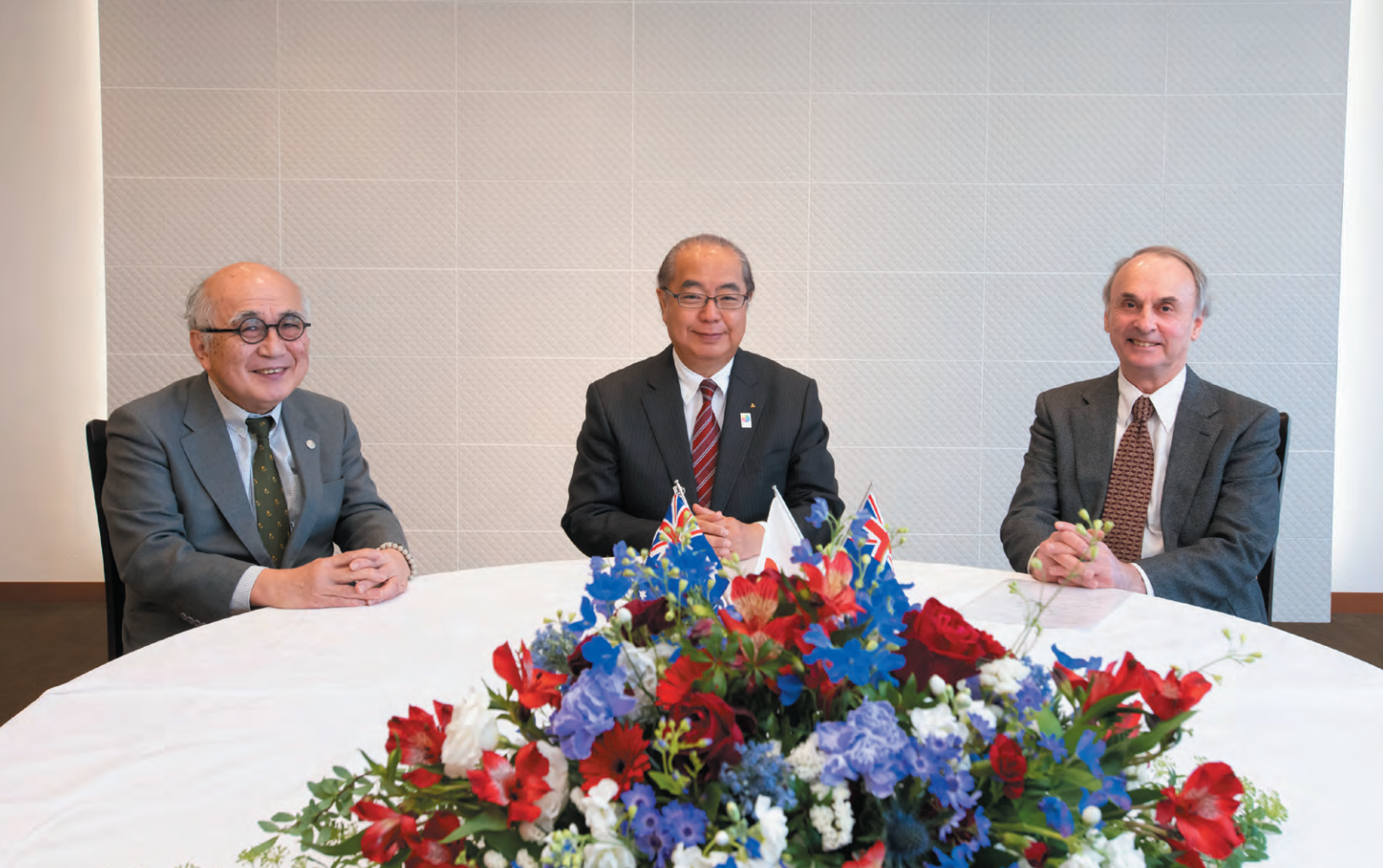
01	1982年(昭和57) 8月	富山日豪協会設立 .....	18
02	1987年(昭和62) 1月	機関誌「南十字星」創刊号発刊 .....	18
03	1986年(昭和61) 5月	ことばの日の集い開催 .....	19
04	1986年(昭和61) 9月	交換留学制度を実施 .....	19
05	1986年(昭和61) 10月	ニューージーランド大使との懇談会 .....	20
06	1987年(昭和62) 4月	第1回中部・日豪合同セミナー開催 .....	20
07	1987年(昭和62) 5月	小学校と留学生との交流会 .....	21
08	1987年(昭和62) 9月	富山日豪ニューージーランド協会と改称 .....	21
09	1987年(昭和62) 12月	交換留学生による座談会 .....	22
10	1988年(昭和63) 4月	オーストラリア建国200年記念国際交流フォーラム .....	22
11	1989年(平成元) 10月	第3回中部・日豪合同セミナー、富山で開催 .....	23
12	1991年(平成3) 9月	稲垣英一が副会長、林和夫が専務理事に就任 .....	24
13	1992年(平成4) 9月	全国日豪協会連絡会議 .....	24
14	1992年(平成4) 9月	創立10周年記念行事開催、 稲垣英一副会長、富山県国際交流部門功労表彰 .....	24
15	1992年(平成4) 10月	創立10周年記念オーストラリアツアー .....	25
16	1993年(平成5) 11月	バスハイク&バーベキュー大会開催 .....	25
17	1994年(平成6) 12月	クリスマスパーティー開催 .....	26



18	1996年(平成8) 9月	原谷会長辞任、新田嗣治朗が新会長に就任	26
19	1997年(平成9) 4月	第1回中部日本ニュージーランド合同セミナー	27
20	1998年(平成10)10月	国際交流フェスティバルにブース出展	27
21	1999年(平成11) 9月	第12回中部・日豪合同セミナー開催	27
22	2000年(平成12) 9月	新田会長逝去、森政雄が会長に就任	28
23	2002年(平成14) 9月	創立20周年記念行事	28
24	2002年(平成14) 8月	創立20周年記念オーストラリアツアー	29
25	2002年(平成14)11月	当協会、富山県功労表彰受賞	29
26	2002年(平成14)11月	日豪協会全国会議・全国実務者会議開催、 全国日豪協会連合会の設立へ	30
Column	豪日交流基金		30
27	2004年(平成16)11月	ニュージーランド大使館表敬訪問	31
28	2005年(平成17) 5月	全国日豪協会連合会設立総会	31
29	2010年(平成22)11月	全国日本ニュージーランド協会連合会設立総会	32
30	2012年(平成24) 8月	森会長退任、新田八朗が第4代会長に就任	32
Column	日豪交流年		32
31	2012年(平成24) 8月	創立30周年記念行事	33
32	2012年(平成24) 9月	創立30周年記念オーストラリアツアー	33
33	2014年(平成26)11月	林和夫副会長、国際交流部門での富山県知事表彰	34
34	2016年(平成28)12月	日豪ガラス作家相互交流事業に後援	34
35	2017年(平成29) 9月	創立35周年記念ニュージーランドツアー	35
36	2018年(平成30) 9月	ラム肉を使った料理教室「素晴らしきラム料理の世界」開催	35
37	2018年(平成30)10月	富山市ガラス美術館「ヒンドマーシュ展」に後援	36
38	2022年(令和4) 3月	カースティ・レイ氏の企画展「静けさの地平」に後援	36

## 資料編

富山日豪協会設立趣意書	38
歴代役員	39
現役員	41
現会員数	41
全国日豪ニュージーランド協会一覧	42
マスコミで紹介された富山日豪ニュージーランド協会	43
あとがき	46



富山日豪ニューージーランド協会設立40周年記念 特別鼎談

## ダイバーシティの先駆的存在として 3国の友好親善に貢献

1982年8月に設立された富山日豪協会（1987年に富山日豪ニューージーランド協会に改称）は、親善訪問や留学生の交換事業、クリスマスパーティー、バスハイクといった多彩な活動によって両国との友好関係を深めてきました。この40年を振り返り、新田八朗会長、林和夫副会長、リチャード・B・コーエン理事がそれぞれの思いや展望を語り合いました。

日 時 2023年3月30日（木） 13：00～  
場 所 富山県民会館 8階会議室  
出席者 会 長 新田 八朗  
副会長 林 和夫  
理 事 リチャード・B・コーエン

## 自由な国際交流の窓口として 1982年夏、協会が設立

**林** ■ 本日は当協会の活動を振り返りながら、懐かしい思い出話やご意見などをお聞かせいただきたいと思います。コーエンさんには設立当初から在県オーストラリア人としてご尽力いただきましたが、入会のきっかけは？

**コーエン** ■ 私はもともとオーストラリアの鉱山会社で技師をしていました。日本との貿易が盛んな会社で、届いた書類や荷物に書かれた漢字に興味をもち、奨学金をもらって2年間、東京で日本語を学びました。帰国後は従来の仕事のほか、日本人パイヤーの通訳も担っていました。その後、東京時代に知り合い結婚した妻と暮らしていたのですが、数年後、高岡で鉄鋼会社を経営する妻の父から「一緒に働かないか」と誘われ、1982年春、高岡市伏木に移住しました。妻が当協会設立時にオーストラリア大使と原谷初代会長との通訳をしていた関係で入会した経緯があり、そのつながりで当協会を知りました。当時は日本語も拙く、知り合いも少なかったので人脈を広げるチャンスだと思って入会しました。正直なところ、どんな会なのか、自分に何ができるかわからなかったのですが、とにかくやってみようと思って。

**新田** ■ その頃、私はまだ当協会にタッチしていませんでしたので、詳しいことはわかりませんが、当時は、現在のように若い人たちが自由に国際交流する手段はあまりありませんでしたから、当協会のような交流窓口は貴重だったと思いますよ。

**林** ■ そうですね。当時は個人で海外へ旅行する人も少なかったですからね。あの頃は「富山県青年の船」という内閣府の国際交流事業があり、毎年団体で海外視察に行っていました。1980年秋には、80数名がオーストラリアとニュージーランドを訪問しています。現地の工場見学やホームステイは新鮮な体験だったと聞いています。その時、富山とオーストラリアの友好関係が深まったことも、当協会の設立を後押ししたと言えるでしょう。



## クリスマスパーティーでは 会長がサンタクロースに

**林** ■ さて、当協会ではこれまで交換留学や大使を招いた懇談会、セミナーなどさまざまな活動を行ってきましたが、印象に残っていることはありますか？

**コーエン** ■ 私はパーティーやハイキングが良かったです。オーストラリア人、ニュージーランド人だけでなく、富山で暮らしている他国の留学生やALTの人たちも誘って楽しみましたね。

**新田** ■ パーティーは6月の総会後の懇親会と12月のクリスマスパーティーが恒例になっていますね。パーティーではオーストラリア産のお肉やオーストラリアワイン、ニュージーランドワインなども振る舞われ、本当に賑やかですよ。

**林** ■ クリスマスパーティーでは参加者がそれぞれ500円ぐらいのプレゼントを持参し、サンタに扮した人が大きな袋に入れて配るのですよね。

**コーエン** ■ サンタは会長や会員が順番にやっていましたね。私の娘も一度、サンタになりましたよ。

**新田** ■ あれ、順番なの？ 私は会長になってからずっとサンタをやらされていますけど（笑）。

**コーエン** ■ お似合いですからそれでいいですよ（笑）。

## 留学生とホストファミリーの多くは 今も交流が続いている

**林** ■ 交換留学生との国際交流にも楽しい思い出がたくさんありますね。

**コーエン** ■ 交換留学で富山に1年間滞在したオーストラリアの学生が、何年か経ってまた富山を訪ねて





くれたり、ホストファミリーと再会を楽しんだりするのは印象的でした。

**林** ■最初の交換留学生のジョアン・リー・ハワードさんには、その後、私がオーストラリアに行った時にお会いしましたよ。

**新田** ■交換留学は毎年実施していたのですか？

**林** ■当協会で実施したのは1986年から1995年の派遣4回、受入5回です。当協会の会員もしくは当協会とは全く関係のない人から事務局で受入先を探してきました。当協会の主催は少ないですが、富山ロータリークラブが積極的にやっていますので、ほぼ毎年、留学生が富山に来ており、当協会も関わっているという状況です。

**新田** ■なるほど、そういうことですね。当協会の会員はロータリークラブの方が多から。そういえば、うちも父がロータリークラブだったので毎年、留学生を受け入れていましたよ。高校生の頃でしたが、いろんな国の人と交流できて楽しかったです。私も留学したいと思っていたのですが、タイミングが合わなくて結局行けなかったのが心残りです。うちに滞在した人たちとは、今でもメールでつながっていますよ。

**林** ■何か思い出深いことはありましたか？

**新田** ■そうですね……。日本のお風呂って、お湯を溜めた浴槽に浸かってそのまま出るじゃないですか。でもうちにきたオーストラリア人留学生は入った後、お湯を全部抜いちゃって。次に入ろうとした家族がびっくりしたことがありました（笑）。

**コーエン** ■外国の生活習慣というのは、今はインターネットで瞬時に調べることができますが、当時はわからなかったですからね。私はオーストラリア人な

ので、ホストファミリーの方から時々相談を受けることがありました。「オーストラリアからの留学生を受け入れて一生懸命お世話しようと頑張っているのに、なぜか反発されてしまう。厳しすぎるのだろうか、馴染めないのだろうか、どうしたらいいのだろうか」って……。でもそうやって悩んだり、考えたり、いろいろやってみることも国際交流なのですよ。

## ニュージーランドでは地震跡地を訪問、全員で慰霊碑に花を手向けた

**林** ■新田知事は2012年から会長に就かれて10年以上が経ちましたが、印象に残っていることは？

**新田** ■周年記念のツアーですね。会長になってすぐの2012年9月に、創立30周年記念オーストラリアツアーに参加しました。シドニーでは豪日協会の会長・マクリントックさんのご自宅にお招きいただき、ホームパーティーを楽しみました。シドニーの高台にある豪邸で真下にシドニー湾、対岸にオペラハウスとハーバーブリッジが望めるロケーション。そんな素敵な場所で温かい歓迎を受けました。十数人と現地協会員数人での訪問にもかかわらず、奥様がすべてのお食事を作ってください、感動しました。そして翌日はカウラに行きました。太平洋戦争時、日本軍捕虜の収容所があったところです。そこでは当時、武器を奪われた日本兵がナイフとフォークを手に脱走を試みたという話や、多くの日本人が帰国できぬままそこで亡くなったという話を聞き、参加者全員で慰霊しました。

**林** ■日本人捕虜のお墓があるのですよね。

**新田** ■ええ。そこで長年、墓守をしてくださっている方がいて、「日本兵はかわいそうだった。自分は今でも彼らの墓を守っていく」と言ってくださったのがとてもありがたかったです。

**林** ■2017年は35周年記念でニュージーランドツアーに行かれましたね。

**新田** ■はい。最初の訪問先であるクライストチャーチでは、2011年のニュージーランド地震で亡くなっ

た方々を慰霊しました。現地では倒壊したビルの跡地を訪れ、献花しました。慰霊碑には亡くなった方の全員の名前が刻まれ、富山外国語専門学校生だった12名の名前もありました。そして最後の訪問先のオークランドでは、日本人会の方々と交流し、観光スポットも巡りました。

## 生活文化や価値観の違いは 会って話してみないとわからない

**林** ■国際交流をすることで、それぞれの国の文化や生活習慣の違いを感じたシーンはありましたか？

**コーエン** ■文化の違いというのは、交流してみないとわからないものですよね。ずっと自分の生活文化圏の中にいれば何も気づくことはないでしょう。でも交流することでいろんな習慣の違いや考え方の違いに気づきます。最初は受け入れ難いことも多い。でもそういう違いに気づく場所や機会を自分から作っていくことは、とても大事だと思います。私が若い頃は日本について知る方法はあまりありませんでした。当時、オーストラリアは周辺諸国とあちこちで喧嘩していましたからね。でも今はいろんな国の人々と自由に交流できる時代。だからもっともっと交流するべきだと思います。特にアジアとの交流は大事だと思っています。

**林** ■私は家族とオーストラリアとニュージーランドに行ったことがとても有意義でした。最初は1988年7月、「建国200年記念オーストラリアツアー」で訪問し、ワールドエキスポのジャパンウィークに参加したり、シドニー豪日協会と交流したりしました。自然が豊かで、みんなフレンドリーで素敵な国だと思ったので、2回目は小学5年生だった長女を連れて行きました。メルボルンのホテルでは天井が雨漏りする、茶色い水しか出てこないなどのトラブルもあったのですが、それでもすごく楽しくて、娘も満喫していました。その次は80代になった父と私、長女、次男の4人で行きました。次男が旅行前、いろいろ下調べをして感心しました。現地の珍しいもの



を食べて驚いたり、コアラのぬいぐるみを買って喜んだり……。楽しい思い出ばかりですよ。

**新田** ■オーストラリアとニュージーランドってもともとイメージが良いですね。「オーストラリアは嫌い」っていう日本人はあまりいないと思う。実際に行くと、フレンドリーで、オープンマインドで、ますます好きになります。しかも人権を重んじる点だったり、自由主義経済だったり、そういう普遍的な価値も長年共有できているので安心してお付き合いできる国だと思います。一方で、文化の違いはあります。我が家にステイしていた交換留学生のことで一つ思い出しましたが、ある留学生が気を使って食器を洗ってくれたのですが、お皿に付いた洗剤はほとんど流さないのです。「大丈夫！ 体に悪くないから」ってね。でも母は怖がって、その子が寝た後にせっせと洗い直していました（笑）。最近はダイバーシティという言葉がよく聞かれますが、違う国の人と交流することで自分の常識が覆されることもあるし、自分の常識が世界では通用しないことに気づかされることもある。だから本当に交流は大事。林さんのお子さんは小学生という早い段階でダイバーシティを認識することができて素晴らしいと思いました。

## 環太平洋諸国を代表する3国として 積極的に、継続的に交流していく

**林** ■当協会の課題や展望についてご意見をいただけますか？

**コーエン** ■私はこれからもお手伝いできることは何でもしたいと思っています。今はインターネットの時代で、世界中、何でも調べられるし、SNSで気軽



に交流できる時代です。若い人たちの間ではそういう交流が盛んです。一方で、当協会は物理的な交流が可能です。ですからこの2つをうまく結びつけて、新しい交流を展開していけたらいいと思います。自分の話で恐縮ですが、先日、会社で使用済みの木製パレットの処分費用に苦心していたら、娘が「それなら欲しい人を探せばいいじゃない？」とSNSで募ったら、あっという間にたくさんの人が取りに来て……。これまで何万円もかかっていた処理費用が要らなくなったのです。当協会もそんなふうにSNSを活用したり、他の団体と連携したりしながら、新しい運営の手法を模索していったらいいと思います。

**林** 同感です。新しい切り口は必要ですね。その一つとして、最近はガラス工芸の文化交流があります。数年前、富山ガラス工房で働いていた名田谷隆平さんと知り合いました。彼はオーストラリアでガラスを学んだ作家さんで、オーストラリアのガラス作家とも親交がある。それで、ガラス作品を通じた国際交流が始まったのです。

**新田** そうですね。名田谷さんのご縁から、ガラス工芸が当協会のコンテンツとして立ち上がり、富山市とオーストラリアのガラス交流をサポートするようになりました。やがてオーストラリアのガラス作家が来県するようになって、昨年はカースティ・レイさんの企画展も実現しましたね。

**林** 盛況でしたね……。では最後に、当協会のこれ

からに期待することを一言ずつお願いします。

**新田** 21世紀になって20数年が経ちますが、アジア太平洋地域がますます脚光を浴びてきていると思います。中でも日本とオーストラリア、ニュージーランドは中核となる国々であり、これからもますます良い関係性を育てていけると 생각합니다。当協会としても、富山県の国際交流の窓口となって、積極的な活動を続けていきたいと思っています。

**コーエン** 今年はぜひクリスマスパーティーを楽しみたいし、ハイキングにも出かけたいです。この3年間はコロナ禍でほとんど交流できませんでしたからね。

**林** そうですね。ハイキングをするなら、私はぜひ孫を連れて参加し、たくさんの方々と交流を楽しみたいです。本日はありがとうございました。

#### ■プロフィール

会長 新田 八朗（富山県知事）

2012年に当協会4代目会長に就任。語学力の高さを生かし、両国との友好関係構築に尽力している。周年記念ツアーでは団長としてリーダーシップを発揮。

副会長 林 和夫（朝日建設株式会社代表取締役）

専務理事を経て2011年より当協会副会長。「建国200年記念オーストラリアツアー」やニュージーランドツアーに参加するなど両国との相互理解と友好交流の推進に積極的に貢献。

理事 リチャード・B・コーエン（ヴィレッジ・セラーズ株式会社代表取締役）

義父の仕事の関係で高岡市に移住。協会設立時にオーストラリア大使の通訳をした妻・中村芳子さんの縁で当協会に入会。良質なオーストラリア、ニュージーランドのワインを通じて両国の魅力を発信し、富山との懸け橋として活躍。



## 富山日豪協会設立趣意書

世界各国との共存の中に生きているわが国にとっては、各国の文化、国民性を理解するとともに、日本を諸外国に正しく理解させるための交流と対話が、最も大切なことでもあります。

日本とオーストラリアは、環太平洋諸国の最先進国であり、互惠共存の靱帯をより強固にすべきパートナーとして、最もふさわしい存在であります。

富山県においては、多年にわたり交換学生の交流、特に一昨年富山県青年の船のオーストラリアへの派遣などを通じて、友好の輪が急速に拡がり、同国に対する親近感はますます深まっています。

オーストラリアとの相互理解と親善促進を目的とする日豪協会は、東京・大阪・名古屋・岐阜などにおいて、すでに設立され、活発な活動を行っております。

富山県においても、かねてから富山日豪協会の設立が待望されておりましたところ、この程、有志相はかつて設立準備に着手いたしました。

何卒、皆様方には以上の設立趣意にご賛同を賜り、ぜひとも設立会員としてご入会戴きたく、お願い申しあげる次第であります。

昭和57年7月

設立発起人（代表者）	原谷 敬吾（富山経済同友会代表幹事）
同 上	馬瀬 清亮（富山県商工会議所連合会会長）
同 上	高瀬 重雄（国際ロータリークラブ 第261地区パストガバナー）
同 上	村本 岸（ライオンズクラブ 334D地区名誉顧問）
同 上	多田 慎一（日本青年会議所 富山ブロック協議会会長）
同 上	津島 朔朗（第10回富山県青年の船団長）

以上



# 親善関係促進目指す 富山日豪協会が設立

## 富山日豪協会が設立

日本、オーストラリア両国の年の船の来航などを基に民間レベルで設立された同協会は、文

化的事業を中心に富山オーストラリア留学生と県内小中学生の座談会、日交流基金から講師を招いての講演会、さし

オーストラリア物産展を今年中に開催して行くこととしている。協会は、会則、役員選任案を原案通り承認、会長に就任した原谷敬吾氏が「両国は共に環太平洋地域での先進国として経済分野では交流は進んできて

### 「若者の交流深めたい」 若者 県庁など表敬訪問

富山日豪協会設立総会出席のため来県したサー・シェームス・アブムワル駐日オーストラリア大使は二十日、県庁を表敬訪問、長島副知事らと歓談した。長島副知事は「富山に青年の船を派遣した際、いろいろお世話になった。県内から進出している企業もあり、一層の交流を深めたい」と歓迎のあいさつ。アブムワル大使は「かねて富山県のごとくお聞かしている。一度訪ねたいと願っていたが、日豪協

(1982年8月21日 北日本新聞)

## 第1回交換留学生が来富 豪盛 豪へは浜四津さん(富山)



富山日豪協会(福屋英一専務理事)は女子高校生との交換留学制度をスタートさせた。第一回交換留学生としてオーストラリア・ヒクトリア州マールフォード高のジョアンヌ・リー・ホワードさん(左)とホワードさん

富山日豪協会(福屋英一専務理事)は女子高校生との交換留学制度をスタートさせた。第一回交換留学生としてオーストラリア・ヒクトリア州マールフォード高のジョアンヌ・リー・ホワードさん(左)とホワードさん(右)が二十五日に来富、一年間の滞在を富山女子高に通っている。四月には富山高一年の浜四津敬哉さん(右)富山市北新町がオーストラリアに向かう。五十九年の異文化の親が、かけとなり、同調

四津さんは応募した約六人の中から選ばれた。日本以外の土地で生活したかった。日本のごとくオーストラリアの人に知ってほしいと話し、父親の隣さん(右)は「娘は昔から外国へ行きがっていた。授産の国際化にも対応できる人間になってくれ」と期待をかけた。

(1987年1月31日 北日本新聞)



# 豪留学生を受け入れ

## 富山日豪ニュー ジーランド協 砺波高で1年間

オーストラリアと高校生の交換留学事業を続けている富山日豪ニュージーランド協会は今年、ニューサウスウェルズ州のエマ・ウォーカーさん(16)を受け入れた。同協会の林和夫専務理事が三十日、ウォーカーさんとともに北日本新聞社を訪れた。

留学生の受け入れは今回が五回目。ウォーカーさんは今月来日、砺波高で一年間学ぶ。「日本語と日本文化を学び、帰国後は大学で広告や貿易の勉強をし、将来は貿易関係の仕事に就きたい」と話した。

ウォーカーさんは全寮制の女子校、ニューイングランド・ガールズ・スクールを昨年十一月に卒業し、水泳、ホッケー、乗馬が得意という。

「将来は貿易関係の仕事をしたい」と話すウォーカーさん

(1997年1月31日 北日本新聞)



富山日豪ニュージーランド協会の創立20周年を祝い、スピーチするフィリップ・ギブソン駐日ニュージーランド大使＝富山市の名鉄トヤマホテル

富山日豪NZ協会

# 3国の友好と発展誓う

## 大使ら出席し20周年式典

富山日豪ニュージーランド協会の創立20周年記念式典を、二十七日、富山市の名鉄トヤマホテルで創立二合つた。

森政雄会長が「留学生の交換などを通じて交流を深めてきた。富山、オーストラリア、ニュージーランドのつながりが三十年、五十年さらに強まることを期待する」とあいさつした。

来賓のフィリップ・ギブソン駐日ニュージーランド大使が「日本とは経済、政治のつながりがあるが、一番大切なのは人と人との結びつき」と英語でスピーチ。グレック・ストーリー、在日オーストラリア大使館公使参事官が「富山の友好関係を長く続けていきたい」と流ちょうな日本語であいさつ、大永副知事も祝辞を述べた。

ストーリー参事官の記念講演に続いて、パーティーもあり、料理を語らながら楽しく懇談した。

同協会は昭和五十七年に富山日豪協会として発足。六十二年、当時の駐日ニュージーランド大使夫妻の来日を契機に翌六十二年、富山日豪ニュージーランド協会に変更した。これまで県内から高校生四人、オーストラリア、ニュージーランドに留学生を受け入れている。式典に先立ち、総会があり、顧問に森雅志(富山市参、理事に林吉彦(サンライズ工業社長)岡氏の新任を決めた。

(2002年9月28日 北日本新聞)



あいさつする森会長＝富山電気ビル

# 日・豪・NZの一層の交流を

富山日豪ニュージーランド協会(会長・森政雄)は8日、富山市桜橋通りの富山電気ビルで総会を開き、本年度の事業計画を承認したほか、役員改選で森会長を再任した。任期は2年。会員や交換留学生ら約50人が出席。森会長が「3国の一層の交流を図りたい」とあいさつし、在日オーストラリア大使館のキラン・チェスト

ナット等書記官と在日ニュージーランド大使館のレベッカ・ケムズレー等書記官が祝辞を述べた。

本年度は、クリスマスパーティーやバスハイク・パーティーを開くほか、全国各地の日豪ニュージーランド協会と交流する。

(2010年9月9日 北日本新聞)





日本語などで自己紹介する出席者

## クリスマス祝い交流

富山日豪ニュージ  
ランド協 留学生ら130人参加

富山日豪ニュージランド協会（森政雄会長）は23日、富山市奥田新町のポルファートとまでクリスマスパーティーを開き、世界各国の参加者が交流を深めた。

県内の学校の留学生や企業に勤める外国人らの交流の場として毎年開催。オーストラリアやニュージーランドのほか、米国やカナダ、英国などの出身の外国人と同協会員ら計約130人が参加した。

パーティーはキンドルサーブिसで始まり、各国の出席者が流ちょうな日本語や母国語で自己紹介した。

今年開かれた「フォレックとやま2010」のマスクット

(2010年12月24日 北日本新聞)

富山日豪ニュージランド協 慰霊祭へ 協会が出席

富山日豪ニュージランド協会のメンバーが20日、創立30周年を記念したオーストラリア視察に出発した。戦中起きた日本人捕虜集団脱走事件の死者が埋葬されている南東部の町カウラを訪ね、慰霊祭に出席する。6日間の日程でシドニー、メルボルンも回り、草の根交流を進める。

会長の新田八朗日本海ガス社長、顧問の森政雄リードケミカル社長、林和夫朝日建設社長、黒川伸一黒川製作所社長ら15人が訪問する。

カウラでは1944年8

(2012年9月21日 北日本新聞)

## 富山日豪NZ協会 地震救援金を預託

富山日豪ニュージランド協会（森政雄会長）は28日、ニュージーランド地震の被災者への救援金を北日本新聞社に預託した。

森会長が北日本新聞社を訪れ、河合社長に救援金10万円を渡した。森会長はクライストチャーチ市は治安がよく、やさしい人が多い街。大きな被害が出たことを残念に思っている。救援金が少しでも被災者やその家族の助けになればいいと話した。稲垣英一副会長、林和夫専務理事、事務局

の田村美幸さんが同行した。救援金は協会員や会員の約120人から集めた。同協会は日本、オーストラリア、ニュージーランドの友好親善を旨とし、1982年に設立。留学生の派遣や受け入れ支援のほか、クリスマスパーティーやバーベキュー大会などの交流イベントを開いている。



河合社長（左）に救援金を渡す富山日豪ニュージランド協会の森会長＝北日本新聞社

(2011年3月1日 北日本新聞)

富山日豪NZ協 30年の節目祝う

富山日豪ニュージランド協会の創立30周年記念式典・記念パーティーは20日、富山市の名称トヤマホテルで開かれ、会員ら約70人が節目を祝った。

式典で新田八朗会長が、両

国と富山の友好関係がより強固になるよう、引き続き努力していきたい」とあいさつ。

ブルース・ミラー駐日オーストラリア大使とマーク・シンクレア駐日ニュージーランド大使が祝辞、夏野真規光・地域振興局長と森富山市長、内藤明人全国日豪協会連合会・会日本ニュージランド協会連合会長がそれぞれ祝いの言葉を述べた。

同協会が設ける交換留学プログラムで、現在は米国・ノースリッジ大学で政治学助教を務める浜田津樹枝元（富山出身）が自身の体験を語った。

パーティーは板倉北日本新聞社長の発声で乾杯し、和やかに歓談した。

式典とパーティーに先立ち、総会が開かれ、任期満了に伴う役員改選で森政雄氏に代わる新会長に新田氏を選んだ。

(2012年8月21日 北日本新聞)

日本の戦没者追悼 NZ協会

創立30周年を記念し、オーストラリアを訪問している富山日豪ニュージランド協会のメンバーが23日、多くの日本兵が埋葬されている南東部の町カウラを訪ね、追悼法要に出席した。日豪双方の戦没者の墓前で手を合わせた。カウラでは1944（昭和19）年、捕虜収容所から500人以上の日本兵が脱走し、2300人が死亡する事件が起きた。捕虜となることを恥とした旧軍の戦隊員が招いた悲劇で、死者は日本人墓地に埋葬された。

一行は慰霊祭に参加するほか、長く日本人墓地を管理し、現地の日本庭園の整備にも尽力したドン・キアラさんと懇談する。シドニーでは、オーストラリア側の交流団体、全国日豪協会連盟のマーク・トック会長による交流パーティーを楽しむ予定。

約300人が死し、捕虜になることを恥辱とする日本軍の戦隊員が原因の悲劇で、日本人墓地が設けられた。法要では同協会の新田八朗会長、林和夫副会長が千羽鶴をさきぎ、メンバーが日本兵一人一人の墓前で手を合わせた。慰霊のため「さるごと」など日本の歌を歌った。

21日には、長く現地の日本人墓地を管理し、多くの日本人の感謝を集めるカウラ豪日協会、ドン・キアラさんと懇談した。

一行の15人は26日まで同国に滞在し、シドニーやメルボルンも回る。

(2012年9月24日 北日本新聞)

## あとがき

本年度、設立40周年を迎え、記念事業の一環としてこの記念誌を発刊いたしました。

これまでの周年時には、オーストラリアやニュージーランドへの海外ツアーを実施してきましたが、記念事業を検討した昨年11月頃は依然コロナ禍ということもあり、何かできないものかということで、設立以来初となる記念誌発刊となりました。毎年発刊されてきた会報誌「南十字星」を基に制作を進めてきましたが、設立30周年以前は紙でしか会報誌が残っていなかったため、可能な限り写真データを収集しつつも、紙の会報誌から直接写真を取り込んだ箇所もあり、不鮮明な部分がありますこと、何卒ご容赦願えれば幸甚に存じます。

2020年、未知の感染症である新型コロナウイルスによって世界は一変し、国際社会との交流が分断されることとなりましたが、インターネットによっていつでも、どこでも世界や人々と繋がることができ、ビデオコミュニケーションによって更に効率的となり、より進化したネット時代へと入っていく一方で、リアルな人との繋がり、関わり大切さを実感したのではないのでしょうか。アフターコロナの時代にあっては、当協会のような存在や取組みがますます大切であることを、この記念誌発刊を通じて強く認識いたしました。

終わりに、この度の発刊にあたって、各方面の皆さまのご理解・ご協力を賜りましたことに改めて感謝の意を表し、あとがきとさせていただきます。

富山日豪ニュージーランド協会

事務局 谷繁竜司・金瀬正志

## 南十字星

富山日豪ニュージーランド協会40周年記念誌

2023年6月 発行

発行

富山日豪ニュージーランド協会

〒930-8588 富山市城北町2番36号 日本海ガス株式会社管理部内

TEL 076-433-1212 FAX 076-442-3025

<https://toyama-nichigo-nz.jp/>

編集協力

石黒美千子（あおいボトル）

TEL 090-1633-8572

E-mail michi4173@gmail.com

青青編集

〒930-0834 富山市問屋町1-1-16 ワタゼンビル2F

TEL 076-452-3721 FAX 076-452-3728

<https://sei2.jp>





Japan-Australia-New Zealand Association of Toyama 40th anniversary

